

軟式野球協会

〔 歴 史 〕

※初期 幕別町における野球の歴史は古く大正の初期に溯ります。大正6年に札幌師範を卒業した新田達道氏は訓導として、幕別尋常高等小学校に赴任し、児童・生徒に当時としては珍しい野球を教えました。これが幕別の始まりであります。

昭和3年、止若野球倶楽部が結成され、昭和17年の全国大会に十勝代表として、札幌円山球場に駒をすすめました。しかし準決勝で1対2Aで惜敗しました。又、新田ベニヤチームも同時代から優秀な戦績を残しました。

昭和21年、復活した第1回オール十勝軟式野球選手権大会(帯広市営球場開場記念)に出場した新田ベニヤチームは、決勝戦で帯広木材倶楽部を2A対1で破って選手権を獲得し、昭和22年に行なわれた第2回国民体育大会北海道予選会に十勝代表として出場し、決勝戦にて室蘭代表の日鋼と戦い惜敗をしました。このころより、一挙に野球熱が盛んとなり、大衆スポーツとしての野球に対する認識が高まってきました。

※幕別町軟式野球審判部時代 昭和33年4月幕別町体育連盟が設立されました。これに伴い従前より、野球愛好家又はプレーヤーによって試合の審判を行なっていたが、審判の公正と試合の運営を円滑にするため、審判員を組織し、昭和34年幕別町野球審判部として発足し体育連盟に加盟しました。発足当時の審判員は17名程度で、部長に二川辰夫氏、事務局長に国枝正義氏の体制で事業の推進にあたりました。これが、現在の軟式野球協会の基礎となりました。当時の事業としては、町民野球大会(公区対抗)の審判を主としており、審判技術の練磨と規則・実技の修得に努力し、正しい野球技術の普及に努めました。

昭和42年から昭和46年までは、部長に二川辰夫氏、事務局長は堀井守氏となり、年々盛大になった野球大会は健全な精神と体力を養い親睦を旨とする意味からも大きな原動力になったものに、朝野球大会があります。朝野球大会は町教委、体育連盟の主催で昭和43年に第1回大会が開催されました。当時の参加チームは3チームであり、現在は飛躍的なチーム数になっています。

このように年々各大会が多く実施され、試合数も多くなるにつれて、審判技術の向上、審判服の整備等の充実を図る必要性が出てきました。昭和47年から昭和51年までは、部長二川辰夫氏、事務局長に逢坂勝巳氏となり、審判員のユニホームの整備については、部の少ない予算の中で、毎年帽子、審判服、靴と、半額の個人負担で整備をしていきました。購入商店への支払いは2～3年の年賦払いで整理をするなどの苦勞話もありました。又、審判員の技術向上についても、帯広市部主催の講習会にも積極的に参加し技術の練磨を図りました。このような地道な努力を図りながら、審判部が幕別の軟式野球の発展のために努力をし、今日の軟式野球協会の礎となりました。

幕別町軟式野球協会

沿 革

昭和51年6月11日町民会館において「幕別町軟式野球協会設立総会」が開催されました。この総会は今までの「野球審判部」を発展的に解消し、幕別町の野球大会の企画・運営を「協会」の手で行なおうという機運が高まり、この3ヶ月以前より規約、事業、予算、組織などについて、設立準備委員会が設置され、準備委員長に貝森拓司氏、事務局長に亀谷雅彦氏を選出し、精力的な審議が行なわれ、この日の設立総会に各チーム代表者、審判員、設立準備委員などが出席し、幕別町軟式野球協会の新しい一步を踏み出すことになりました。

設立総会では規約の審議、業務の推進、予算案など準備委員会提案事項を原案通り承認され、次いで役員選出が行なわれ、選考委員会において、前審判部長の二川辰夫氏を顧問とし役員が選出されました。

会 長 貝 森 拓 司
副会長 牛 尾 昌 平 . 小 川 義 男 . 井 上 太 郎
理事長 亀 谷 雅 彦
副理事長 榎 本 基
常任理事 井 沢 政 助(総務) . 上 田 宜 慶(企画) . 逢 坂 勝 己(審判)
中 村 忠 行(管理) . 長 尾 龍 衛(会計)
監 事 三 好 政 男 . 牧 野 茂 敏

の各氏を選出し満場一致にて決定をみました。

協会が設立され初めて運営した大会が、「第9回町民朝野球大会」で6月14日から6月28日まで、町営球場、幕別中を会場にして、25チームが参加をして熱戦をくりひろげました。

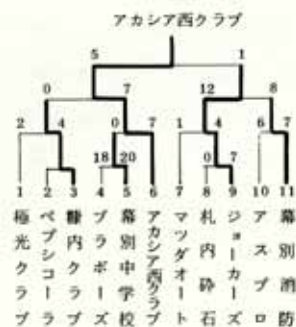
この大会の準々決勝で、十勝葉山電器5 - 石油荷役4、北王コンサルタント6 - 幕別高校2、明倫クラブ7 - 駒島ストロンガー4、商工青年部1 - 極光クラブ0、準決勝は十勝葉山電器6 - 北王コンサルタント4、商工青年部8 - 明倫クラブ2 となり決勝戦にて十勝葉山電器が幕別商工青年部を、5対2で破り優勝の栄誉を勝ち取りました。

幕別町では「町民朝野球大会」だけしか朝野球が企画されていませんでしたので、登録チームの間から試合数が少ない、大会を増やそうという意見を受け、7月7日理事総会を開催して、協会主催の大会を提案して、7月15日から26日にわたり協会設立を記念するとともに、開町80周年を記念して、「第1回協会設立記念朝野球大会」を行ないました。この大会は先に行なわれました大会結果をもとに、永年の懸案であったクラス別けを実現し、これ以後の大会運営の基礎となった大会でもあります。この大会はAクラス7チーム、Bクラス11チーム、Cクラス11チームの合計29チームが参加し、先の大会より4チーム参加が増えました。

Aクラス(幕別中G)



Bクラス(幕別町営G)



Cクラス(十勝葉山電器G)



昭和51年は幕別町開基80周年の記念の年であり、協会もこれを祝して「開基80周年記念野球大会」を開催しました。この大会はAクラス11チーム、Bクラス12チームが参加して4球場を使用し、9月23日と24日に1回戦を朝野球として実施、9月25日(土)準々決勝、26日(日)に準決勝・決勝を実施しました。この結果Aクラスは春日クラブが優勝、新田ベニヤが準優勝となりBクラスは駒島ストロングが優勝、幕別消防が準優勝となりました。

個人賞は、Aクラスでは最優秀選手賞 中村政信(春日クラブ)、殊勲賞 高橋和義(春日クラブ) 敢闘賞 岩井 浩(新田ベニヤ)、Bクラスでは最優秀選手賞 新田勝治(駒島ストロング)、殊勲賞 長崎 忍(駒島ストロング)、敢闘賞 中沢弘志(幕別消防)の各氏が受賞されました。

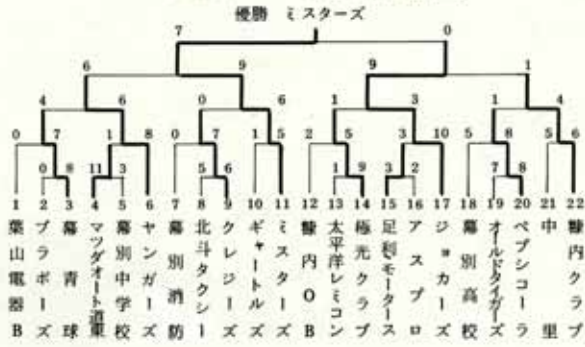
「第22回町民野球大会」健康な体力は、すべての幸福の基礎です。野球を通して町民相互の親睦と健康な体力づくりを推進するための目的で、昭和30年に始められた大会を引き継ぎ協会が主催して行なう事となり、8月29日、9月5日の2日間にわたって実施されました。この大会は町内の公区にて1チーム編成し、26チームが参加して、4球場を使用して行なわれました。この大会の準決勝で旭町第4公区3-札幌内中央町3公区2、札幌内春日町8-錦町第2公区3、となり3位決定戦では、錦町第2公区が札幌内中央町第3公区を7対0で破りました。決勝戦は札幌内春日町が旭町第4公区を、4対2で破り優勝旗を手に入れました。

昭和52年6月10日に52年幕別町軟式野球協会の総会を町民会館において行ない、51年度事業の報告、会計報告、監査報告を満場一致で承認され、次いで52年度の事業計画、予算案を提案し原案通り可決されました。又、52年度協会の登録チームの確認、登録審判員の確認、規約の審議、協会役員の確認を行ないました。第10回町民朝野球大会の組み合わせ抽選会が行なわれました。

Aクラス(幕別町営G)



Bクラス(幕別中G・十勝葉山電器G)



「第10回町民朝野球大会」は6月15日から7月1日までの17日間にわたり、前年度実績に基づいて、A・Bクラスに分け行なわれました。この大会で登録チームは31チームに増えました。

7月7日「第2回協会設立記念朝野球大会」の組み合わせ抽選会が行なわれ、この大会はA・B・Cの3クラスに分けて実施されました。

Aクラス(幕別中G)

Bクラス(十勝葉山電器G)

Cクラス(幕別町営G)



昭和52年の道民スポーツ大会にて、井沢政助監督・松島健二郎主将を中心として、東部予選にて優勝し、十勝大会に駒を進め、十勝優勝を成しとげることが出来ました。

この年の秋空は野球に味方しないで、週末に雨という天気で野球シーズンが過ぎ去ってしまいました。このため第23回町民野球大会、今年度実施計画をした第1回全町オールスター野球大会など、9月の週末に予定した野球大会が荒天のため実施出来なくオフシーズンとなりました。又、この年協会登録チームの、明倫クラブ(井上太郎監督)が、町スポーツ教育賞を受賞しました。受賞の理由は、昭和21年にクラブチームが結成され、一環して農業後継者チームとして、他の範となることが大であるという理由であり、協会としても大変喜ばしい事であります。

昭和53年6月2日、町民会館において、53年度幕別町軟式野球協会総会が行なわれました。この総会で52年度の事業・会計・監査報告を承認し、53年度の事業計画・予算が原案通り可決されました。又、規約にのっとり、2年任期の役員改選が行なわれました。

会 長 貝 森 拓 司

副 会 長 井 上 太 郎 ・ 三 好 政 男 ・ 亀 谷 雅 彦

理 事 長 榎 本 基

副 理 事 長 中 村 忠 行

常 任 理 事 葛 西 良 夫(総務)・橋 本 雅 弘(企画)・井 沢 政 助(審判)

高 橋 和 弘(管理)・小 川 幸 男(会計)

監 事 斉 藤 栄 一 ・ 牧 野 茂 敏

の各氏を選出し、満場一致にて決定をし、53、54年度の協会役員として発足しました。

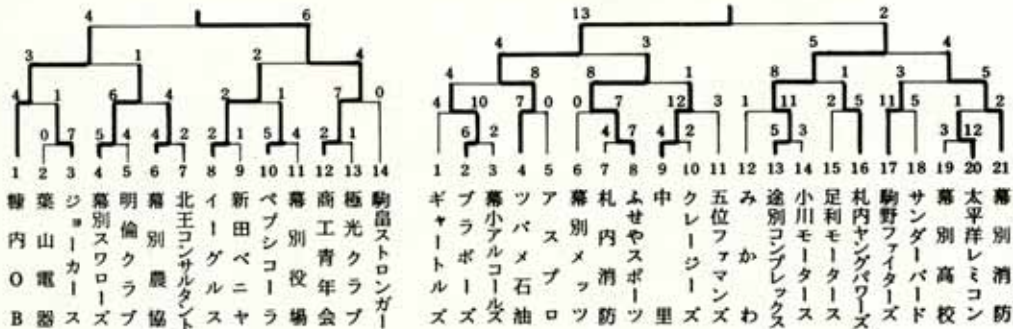
昭和53年6月10日 幕別中学校グラウンドにて、講師として帯広軟式野球連盟の丸山支部長・中井副理事長を迎え、審判講習会を実施し、審判技術の向上、審判員の底辺の拡大を目的として、ルール学習、基本的審判技術の修得など、47名の審判員とチームよりの参加者を得て実施しました。

「第11回町民朝野球大会」が6月13日～30日に亘って、3球場を会場にして行なわれました。

この大会は過去最高の35チームが参加して熱戦がくり広げられました。

Aクラス(幕別中G)

Bクラス(幕別町営G・十勝葉山電器G)

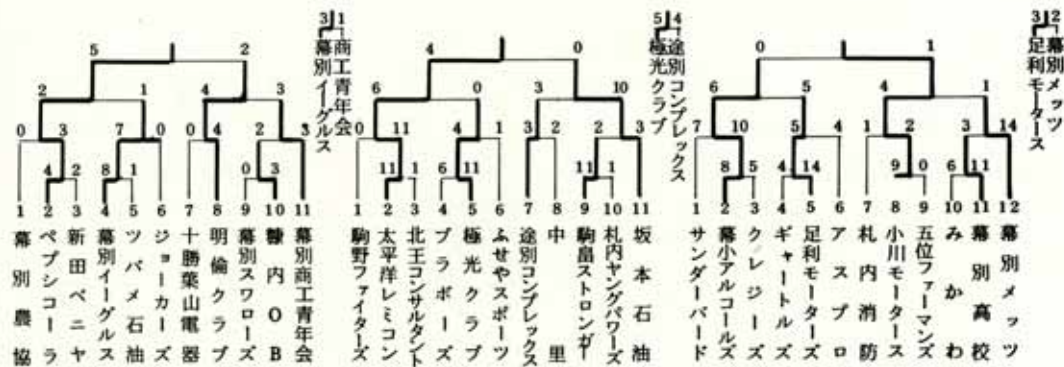


昭和53年7月5日「第3回協会設立記念朝野球大会」の組み合わせ抽選会を行ない、A・B・Cの3クラスに分け、34チームの出場により、11日から28日まで戦いが進められ、この大会は出場チームが大巾に増え、以後の大会のクラス分けの基礎となった大会でもあります。

Aクラス(幕別町営G)

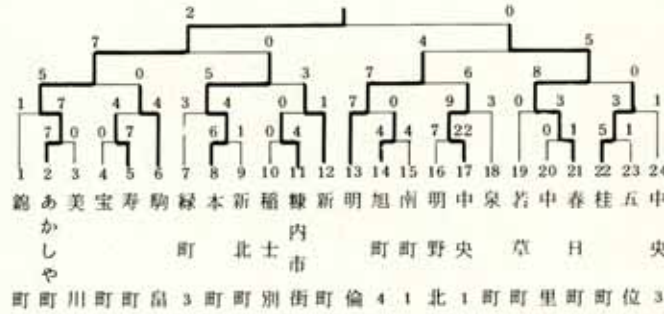
Bクラス(幕別小G)

Cクラス(幕別中G)



体育連盟はこの年道民スポーツ大会の実行委員会を設置し、道民スポーツ大会に向けて、スポーツを地域にという考えに立った実行委員会に野球協会も積極的に参加しました。この中で体育連盟の役員の方々の御努力と町理事者の暖かい御理解で、道民スポーツ大会野球チームにユニホームを揃えていただきました。7月16日浦幌町で行なわれました東部予選大会では、1回戦池田町を中村政信投手の力投により2対0で破り、決勝戦でも地元浦幌町を1対0と松田勝投手の巧投により破り優勝し十勝大会へ進出しました。7月30日帯広緑ヶ丘球場で十勝大会が行なわれ、小川幸男監督、金須幸雄主将を中心として、準決勝では管野日出夫投手の力投で芽室町を破り、決勝戦では音更町を小川幸男監督のレフトスタンドへの本塁打と中村政信投手の巧投により2対0と破り、道民スポーツ大会十勝二連勝を飾る事ができました。

「第23回町民野球大会」は9月3日・24日の両日に亘って行なわれました。この伝統の大会に町内24公区よりの参加がありました。大会結果は表の通りであります。準々決勝で、札内あかしや町の菅野日出夫投手は駒島を相手に完全試合を達成しました。



力投する菅野日出夫投手

9月15日幕別神社の祭典に合わせて、第1回全幕別オールスター野球大会が行なわれました。この大会は、協会設立当時より懸案の大会であり設立3年目にて実現しました。又、この大会を実施するにつきまして幕別商工会・幕別観光協会を始め多数の方々に多大なる御後援をいただいた事を感謝申し上げます。当日は駅前よりパレードを行い、町営球場に大石町長、福田教育長らを迎え開会式を挙行いたしました。この大会では同一投手は3回以上投板出来ない、全選手を同一試合に出場させなければならない、など今大会の特別ルールを適用して実施しました。試合は貝森拓司会長の試球式で幕を切って落しました。

第1回戦は西幕別（亀谷雅彦監督）対南幕別（井上太郎監督）で行なわれ、中沢・黒田投手の好リレーで南幕別が勝ちました。

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
南幕別	2	0	3	0	0	2	0	0	0	7
西幕別	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

第2回戦は南幕別対中央幕別（三好政男監督）で行なわれ、山内・桑井両投手の力投で中央幕別が勝ちました。

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
南幕別	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
中央幕別	0	0	0	0	0	0	2	0	×	2

第3回戦は中央幕別対西幕別で行なわれ、菅野・小川幸、松島投手の好投で西幕別が勝ち、この結果3チームとも1勝1敗となり得失点差で南幕別が優勝しました。

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中央幕別	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西幕別	3	0	0	0	0	0	0	0	×	3

〈個人表賞選手〉

- 最優秀選手賞 小川 幸男（西）
- # 投手賞 菅野日出夫（西）
- # 監督賞 井上 太郎（南）
- 優秀選手賞 山内 浩一（中央）
- # 中沢 弘志（南）
- # 中村 政信（西）
- 優秀投手賞 桑井 健志（中央）
- # 松田 勝（西）
- # 黒田 康広（南）
- 敢闘賞 前川 厚司（南）
- # 金須 幸雄（中央）
- # 徳野 忠（南）
- 美技賞 中村 徳之（南）
- # 飛田 栄（中央）
- # 松島健二郎（西）
- 打撃賞 小川 幸男（西）
- 技能賞 遠藤 弘（西）
- # 井村 和秀（南）
- # 本田 敏春（中央）
- # 森脇 登（中央）
- 健闘賞 小川 義男（西）
- （各チーム キャプテン） 井沢 政助（中央）
- 中村 勇（南）

現 況

54年度の総会が5月23日行なわれ、53年度事業・会計・監査報告が行なわれ報告通り承認されました。次いで54年度の事業計画・予算が提案通り可決されました。事業計画の中で、今年度の

2回の朝野球大会の実施につきまして、ブロックリーグとトーナメントを組み合わせた試合方法を決定し、1回の大会で1チームが必ず3試合を行なう方法を採用すると同時に2回の大会を連らねるといふ意味から上位クラスと下位クラスとの入れ替え戦を行なうことを決定しました。この総会で協会の登録チームは中央幕別地区より21チーム、札内地区より18チーム、南幕別地区より6チームと幕別の全地域より45チームが確認され発足以来最高のチーム数となりました。

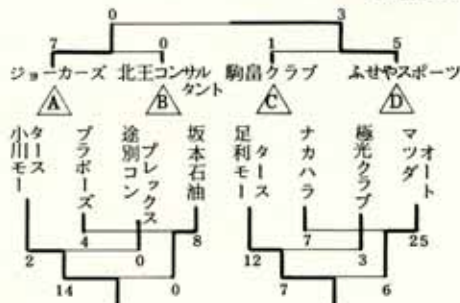
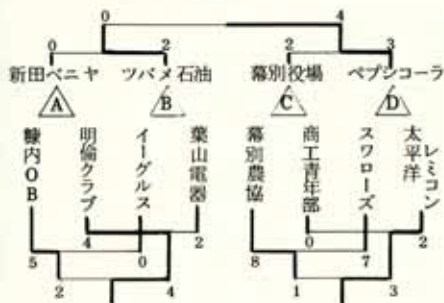
第12回町民朝野球大会の組み合わせ抽選会及び開会式が5月31日に行なわれました。A・B・Cクラス12チーム、Dクラス9チームが6月7日から7月4日まで1ヶ月にわたり延べ80試合余に熱戦をくりひろげました。



抽選をする明倫クラブ
六郎田選手

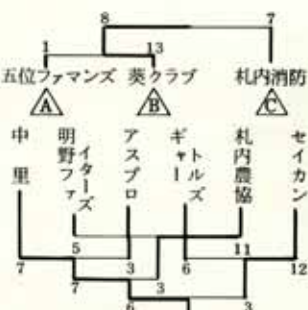
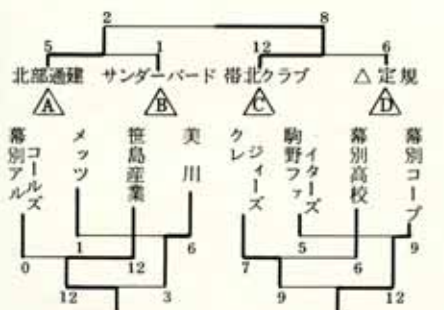
Aクラス(幕別中G)

Bクラス(幕別町営G)



Cクラス(幕別小G)

Dクラス(幕別高G)



Aクラス優勝
ペプシコーラ青木監督

7月6日・7日に今大会から実施されることになった入れ替え戦が行なわれ、Bクラス優勝のふせやスポーツが十勝葉山電器を破りAクラス進出、Aクラス11位の商工青年部はジョーカーズ棄権のため残留、Cクラス優勝の帯北クラブはナカハラを、準優勝の北部通建はプラボーズを破りBクラス進出を果しました。Dクラス優勝の葵クラブ、準優勝の札内消防は、メッツ、駒野ファイターズを破りCクラス進出を決めました。

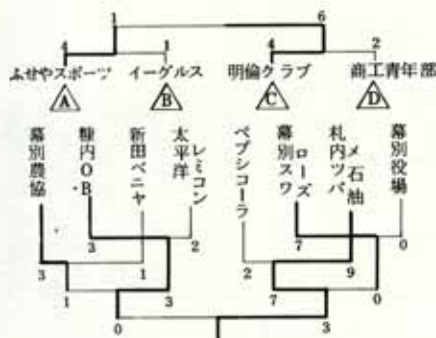
7月9日に行なわれた第4回設立記念大会の組み合わせ抽選会の席上、先に行なわれた大会の表彰が行なわれ、貝森会長より各クラス優勝・準優勝チームにトロフィーの授与がありました。それに引き続き組み合わせ抽選会が実施され、開会式では、貝森会長のあいさつ、亀谷副会長の競技開始宣言、ペプシコーラ石田主将の選手宣誓で、7月13日から8月



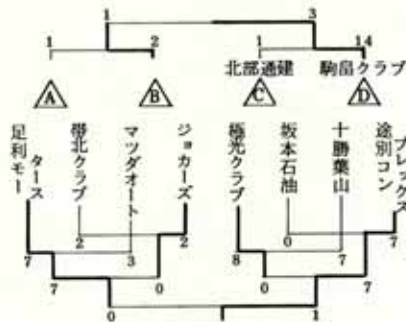
組み合わせ会風景

23日にわたって熱戦をくり広げられました。

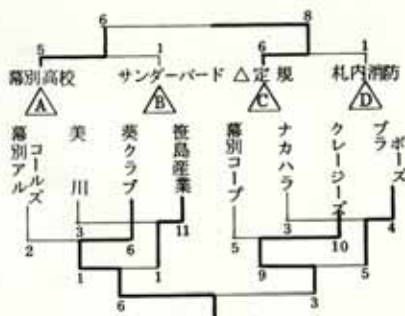
Aクラス(幕別町営G)



Bクラス(幕別高G)



Cクラス(幕別中G)



Dクラス(幕別小G)



第4回協会設立記念朝野球大会の結果に基づいて、入れ替え戦が行なわれ、Bクラス優勝の駒鳥クラブが幕別役場に挑戦しましたが惜敗し、準優勝の北王コンサルタントが太平洋レミコンを破りAクラスに進出。Cクラス優勝のΔ定規はBクラスの坂本石油を破りましたが、幕別高校は帯北クラブに破れ残留。Dクラスの5位ファマンズ、中里は美川、ナカハラを破りCクラス進出をなしとげました。第22回町民野球大会は9月2日・9日の両日に行なわれました。公区単位で22チームが出場して秋空のもとに熱戦が続き決勝戦で本町公区が新町公区を7対2で破り優勝し幕を閉じました。

本年行なわれました道民スポーツ大会東部地区予選会は池田町を会場として行なわれ、野球も実行委員会のもとで、小川幸男監督、金須幸雄主将を中心として参加しました。1回戦では浦幌町に対して松島三塁手のホームランなどで逆点勝ちを収めました。決勝戦では池田町に惜敗し3年連続優勝の望みは破れ去ってしまいました。

第2回全幕別オールスター野球大会は9月15日町営球場を会場として町内3ブロックに分け、中央幕別(小野光義監督)、西幕別(小川幸男監督)、南幕別(橋本雅弘監督)でリーグ戦が行なわれました。

第一試合 9時30分 中央幕別 対 南幕別

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
南	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

球審 坂本 基・一塁 池谷雅彦・二塁 小川幸男・三塁 藤司 尚

第二試合 12時 西幕別 対 南幕別

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
南	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3
西	0	0	2	1	0	1	0	2	×	6

球審 貝森祐司・一塁 金須 武・二塁 三好政男・三塁 島西良夫



第三試合 14時30分 西幕別 対 中央幕別

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
中央	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西	0	0	1	0	1	0	0	0	X	2

球審 榎本 基・一塁 西藤高志雄・二塁 藤司 清・三塁 高西良夫

の結果となり、西幕別チームが優勝しました。各チームに金・銀・銅メダルが参加全選手の胸に飾られ全日程が終了致しました。

- ・優勝チームメダル 西幕別
- ・準優勝チームメダル 中央幕別
- ・3位チームメダル 南幕別
- ・最優秀選手賞 中村 政信(西)
- ・優秀選手賞 桑井 健志(中央)
- ・敢闘選手賞 黒田 康宏(南)
- ・最優秀投手賞 小川 幸男(西)
- ・優秀投手賞 佐野 修(中央)
- ・敢闘投手賞 前川 厚司(南)
- ・最優秀監督賞 小川 義男(西)
- ・優秀監督賞 小野 光義(中央)
- ・敢闘監督賞 榎本 雅弘(南)
- ・美技賞 熊谷直則(中央)、腰越紀幸(西)、井村和秀(南)
- ・打撃賞 黒田 康宏(南)
- ・本塁打賞 武田 敏幸(西)、松島健次郎(西)
- ・敢闘賞 金須 幸雄、山内 浩一(中央)
菅野日出男、松島健次郎(西)
中村 勇、逢水 隆啓(南)



貝森会長より最優秀選手賞を受ける
中村政信選手

〈現役員〉



会長 貝森拓司



副会長 井上太郎



副会長 三好政男



副会長 亀谷雅彦



理事長 榎本 基



副理事長 中村忠行



総務 高西良夫



企画 榎本雅弘



審判 井沢政助



管理 高橋和弘



会計 小川幸男



監事 斎藤 栄一



監事 牧野茂敏

展 望

幕別町軟式野球協会の登録チームは45チーム、670余名が参加し、審判員は52名を数えるに至りました。登録されているチームは純農村チーム、職場チーム、クラブチームなど、その構成は多彩であり年ごとに増加しています。少年野球や中学校野球が盛んで、少年野球は昭和52年に幕別小学校のタイガースが十勝優勝を達成し全道少年野球大会に出場しています。更に少年野球チームは札内南小、白人小、南幕別チームなどが結成され十勝・全道大会を目標として頑張っています。協会もこれら少年野球を支援するとの立場から、町内大会を主催して実施しています。

中学校野球も町内4中学校で野球部を設置して活躍をしていますが、昭和49年度に幕別中学校野球部が全十勝大会に優勝し、全道大会に出場し第3位の成績を残しました。更に54年度の全十勝野球大会で幕別中・糠内中ともにベスト4に残ったことは特筆されることです。

又、地域における野球大会も盛んに行なわれる様になり、南幕別においては農村チームを主体とした大会が毎年開催されたり、札内地域においても札内をホームグラウンドとするチームが集まり大会を開催する様になりました。協会はこれら小・中学校野球大会や地域におけるスポーツ活動を積極的に後援するとの立場から、審判員の派遣、大会の企画など、今後も取り組んでいかなければならないと考えています。

協会に登録するチームの大部分が積極的に帯広・十勝の野球大会に出場し、十勝全域の野球チームとの交流を図っています。幕別役場チームの十勝や全道大会における活躍や、チームの一員としての全道大会の活躍など目ざましいものがあります。これら十勝や全道における拡がりも支援していかなければなりません。

幕別は地域的に利便で各種の十勝大会が開催される様になりましたし、地域の野球大会、協会主催の大会など、シーズンを通してグラウンドでは野球が行なわれる状況です。

しかし、町営グラウンドは1ヶ所しかなく、大部分は小・中・高や企業のグラウンドを借用しているのが現状です。町営グラウンドを中心とした各学校のグラウンドの整備や、特に札内地区・南幕別地区に町営球場の造成が望まれます。一方、協会に登録されている審判員は50余名にしかすぎず、各種の大会や朝野球大会の現状からも、審判員の絶対数が少ないという事がいえます。協会は審判講習会やルール説明会などを開催して、審判員の養成を計り底辺を拡大するとともに、技術的にも、論理的にも、すぐれた執権をもつ審判員や指導者の開発に重点を置くことにより、更に充実した社会体育の使命を遂行することの出来る野球協会に発展するものと確信する。